

杉野服飾大学の学修（教育）成果測定の指標

初年次教育課程の学修成果測定

服飾学科について、進級率モード系143人中123人、86%、ビジネス系50人中48人、96%、学科全体で88.6%である。系による差がみられる。

進級者以外についてみると、退学者モード系16人、11.1%となっている。退学理由としてあげられるのが、専攻分野不適合、学業遅滞である。また、健康上の理由で長期欠席により、そのまま退学となっている傾向があるのではないかと推測する。

2018年度生ビジネス系学生の一部においては、5人が条件付きで進級をしていることで、学業遅滞にある学生も退学までに至らなかったのではないかと考えられる。

服飾表現学科について、進級率22人中21人、95.4%である。退学理由が健康上の理由ということであった。表現学科生は、第1期ということもあり、志望動機の明確な学生が多かったため、進級率が服飾学科と比較し高い結果となったといえるのではないかと推測する。

平成31年4月教授会資料 No.2-1 入学年度別 退学率・卒業率を参考に、2010年度生からの推移をみると、2010年度2011年度にかけては、退学率が13.1%と高い。2012年度は前年度よりも入学者が減少したものの13.7%と高かった。基礎課程2年間という中で、学業遅滞者が多く出ていたのではないかと推測する。

2013年度は、入学者数が増加したが、専攻分野での不適合者が少なかったため、退学率は10.5%と下がったのではないかと推測する。

2014年度は、入学者数が最も少なく、一クラスの数も40名を割り、服飾学科にビジネス系を設置する前年という中で、前倒しに取り組んでいたこともあり、退学率が前年の10.5%から7.2%と下がったのではないかと推測する。

2015年度からは、入学時点で服飾学科はモード系とビジネス系の志望を設けたことで、専攻分野での不適合者が減少したため6.3%に下がったのではないかと推測する。

2016年度は、入試委員会での入学前課題内容の検討がされ、さらに改善されたことで退学率が4.9%に下がったのではないかと推測する。また、合否判定にあたって高校時代の出席状況について厳しくチェックするようになったことも退学率の減少となったのではないかと推測する。

2017年度に関しては、入試委員会での面接採点表の改善など選抜方法を改善し、入試関係部署と初年次教育課程との情報の共有をはかったが、学習意欲に問題のある学生が多かったこともあって初年次教育課程の担当者の努力にも拘わらず退学者の増加につながった。また、ビジネス系の学生に学業遅滞者や専攻分野不適合での退学者がいたため、前年の4.9%よりも退学率が7.1%と高くなったのではないかと推測する。

2018年度は、入学前スクーリングについて服飾学科のモード系、ビジネス系、服飾表現学科と内容を分け、モチベーションを持たせるようにしたが、専攻分野不適合で退学した者がいる。学業遅滞者の中には高校時代から欠席の多い学生もいるため面接においてチェックをしているが、心身的な理由で欠席しがちになる学生も増え、改善となっていないのではと推測する。

大学 進級率について

1年次での必修における修得単位や35単位以上を持って進級とする規定は2018年度に決めた。

単位を修得しなくても進級していたときは、3・4年次まで1年次の不足単位を持ったまま進んで行き、卒業時にとりきれなかった学生、中途退学につながった学生も多数いた。また基礎を行わずに同時進行で専門を行うことには問題があり一昨年の改正は必要であり、また学生にとっても専門を行うための基礎修得は必修であることを認識させられた功績はあると思われる。

表 1.

服飾学科	1年 193名		2年進級		学校全体
2018年度生	モードテクノロジー系	143名	123名	86.0%	88.6%
193名	ビジネス系	50名	48名	96.0%	
服飾表現学科	1年		2年		95.4%
2018年度生	22名		21名	95.4%	

表 2.

服飾学科	1年 198名		2年進級		学校全体
2019年度生	モードテクノロジー系	140名	126名	90.0%	168名/198名
198名	ビジネス系	58名	42名	72.4%	84.8%
服飾表現学科	1年		2年		91.6%
2019年度生	24名		22名	91.6%	

表1と表2を比較すると

今後、学生に満足のいく教育を行うためにも最低限の修得単位を取らせていくことは重要である。

また、36単位修得しないと進級できない条件は2019年度初めての試みであったため、数名のビジネス系学生は条件付で進級させた。条件とは選択するコース以外の基礎で2年次の専門科目と同時に履修できる条件があることを前提に、1年次の授業を欠席無く修得に取り組み、もし3分の1の欠席や課題遅滞が見られた場合は1年次の履修を優先させ2年次専門科目はそれが修得できてからでないと取らせないこととした。しかし、条件付きの学生がその後進級出来ず、退学してしまった。条件無しにただだと科目を取るより、本人にも自覚が芽生え、効果があったといえるが今後は数年の進級状況を見て、改善していきたい。

ビジネス系の学生の進級率が低いことから2020年度から服飾造形授業内容の変更や必須授業の見直しをした。今後この効果も見ていく必要がある。

(文責：北折)

大学 卒業率について

服飾学科全体における大学入学者が4年間での卒業率は以下の通りである。

多少ではあるが、少しずつ上がってきている。

2013年度生 68.8%

2014年度生 73.2%

2015年度生 74.7%

今後卒業率 80%を目標にするには、2年次進級 90 パーセントを目指し、モード系 80.2%を 83%、ビジネス系が 84.1%を 87%として改善を考えていかないと、全体の入学生における卒業生のパーセントは 80%に達せられない。

卒業次における最終到達目標を見据えての改善であることから、部分変更ではなく全学年を通しての授業や対応改善における話し合いが必要と考えられる。

コース別 卒業率

コース別の3年間の卒業率を見ると13年度より年々悪くなっている残念な結果である。授業内容の改革をした後のものが結果として良い方向になっているのかまだ解らないが、13年度は163名、14年度は112名、15年度は130名と14年度はコースに来た時点で各コースの人数が少ないうえにその後の退学者も多いコースがある。15年度で持ち直したコース以外は授業内容の再検討が今後必要になると思われる。

また今後、現2年生においては36単位以上の修得とアセスメントポリシーにあわせた検定へ対応が始まる。それらを総合して本学学生の素質に合わせた授業や目標の見直しが必要になると思われる。

来年度早急に初年次の学生データ情報を3月または4月頭にコース主任に伝えてもらう会議を開き今後の対応を的確にしていきたい。

表1. 3年間のコース別卒業率

卒業率(大学13~15年度生)

	13年度	卒業数	卒業率	14年度	卒業数	卒業率	15年度	卒業数	卒業率
モード	42	38	90.48%	25	21	84.00%	52	44	84.62%
感性 (インダストリアル)	25	23	92.00%	23	22	95.65%	22	19	86.36%
ファブリック (テキスタイル)	35	27	77.14%	16	14	87.50%	23	17	73.91%
プロダクト	34	28	82.35%	20	13	65.00%	19	13	68.42%
先端	12	11	91.67%	7	7	100.00%	—	—	—
文化論	12	9	75.00%	9	8	88.89%	—	—	—
ビジネス (マネジメント)	32	27	84.38%	32	27	84.38%	34	28	82.35%
ビジネス (イノベーション)	—	—	—	—	—	—	10	9	90.00%
合計数	192	163	84.9%	132	112	84.85%	160	130	81.25%

(文責：北折)

就職者数による学修成果測定

《指標》

- ・標準卒業年次での卒業者に対する就職者数の比率
⇒ 83.8% (平成 30 年) ⇒80.0% (令和元年)
- ・標準卒業年次での卒業者数に対する服飾企業の専門的職業への就職者数の比率
⇒ 71.5% (平成 30 年) ⇒67.7% (令和元年)
- ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する就職者数の比率
⇒ 99.1% (平成 30 年) ⇒92.0% (令和元年)
- ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する専門的職業への就職者数の比率
⇒ 29.1% (平成 30 年) ⇒23.0% (令和元年)

※専門的職業はコースでの学修成果目標による職種を言う。

《評価結果》

令和元年度標準卒業者の就職率は、昨年度より低下した。就職率（92.0%）から見ると、一定の学修成果を得ていると言えるが、昨年度から低下した原因等については、就職課、コース責任者連絡委員会での検討が必要と考える。就職課では、第1希望の職種にこだわった学生が多数いたことを原因の一つに上げている。

《評価内容》

- ① 令和年度の標準卒業年次生（学籍番号が16でスタートする学生）は、昨年と同数の130名であった。内113名が就職を希望し、17名は進学その他で就職活動を行わなかった。よって、就職率については113名を分母として算出している。
- ② 就職活動を行わなかった学生17名についての状況は下記の通りである。
(左側数値は前年度)

進学者 杉野服飾大学大学院	2名 ⇒ 4名
進学者 他学校等	0名 ⇒ 1名
留学者	0名 ⇒ 2名
進学希望者	1名 ⇒ 1名
教員希望者	1名 ⇒ 2名
個人で制作活動	1名 ⇒ 0名
帰国	1名 ⇒ 1名
縫製アシスタント・デザイン系アシスタント	2名 ⇒ 0名
留学準備の為のアルバイト	4名 ⇒ 2名
アルバイトの継続（進路検討中、体調不良、アルバイト先の継続 等）	7名 ⇒ 4名
家事手伝い	1名 ⇒ 0名

就職課は、就職活動を実施しなかった学生 17 名については、本人及び保証人から上記の理由の報告を受けている。本人の意思で現状を確定しており、不明な学生はいない。

- ③ 就職希望者に対する就職達成率は 92.0%で、良好な数値を達成した。現在 9 名が就職活動中である。
- ④ 就職先は、昨年度の調査から、まず「専門分野」と「専門分野外」に分けた集計を行った。結果、「専門分野」77.9%（昨年 84.5%）「専門分野外」は 14.2%（14.5%）であった。就職部へのヒヤリングでは、「専門分野外」の学生は「専門分野」をあきらめたいわゆるドロップアウトではなく、逆に本学から一般企業を目指す強い就職熱意を示す学生であった。職種では、広告代理店、バイクの整備士、IT 関係、派遣会社社員登録と多岐にわたっている。
- ⑤ 「専門的職業」への就職者数の調査についてである。「専門分野」のうちで各コースがアセスメントポリシーの中で、それぞれのコースが目指す「専門的職業」を定めた。

今年度の数値は以下の表の通りである。（左の数字は昨年度の数値である。）

モードクリエイションコース	10 名 29.4% ⇒ 12 名 32.4%
インダストリアルパターンコース	0 名 0.0% ⇒ 1 名 5.0%
テキスタイルデザインコース	6 名 40.0% ⇒ 0 名 0.0%
ファッションプロダクトデザインコース	3 名 30.0% ⇒ 3 名 27.3%
ファッションビジネスマネジメントコース	9 名 36.0% ⇒ 7 名 26.9%
ファッションビジネス流通イノベーションコース	4 名 44.4% ⇒ 3 名 21.4%

なお、ファッションビジネス・マネジメントコース、ファッションビジネス・流通イノベーションコースでは、「CCOとなる人材」、「CMOとなる人材」を専門的職業と位置づけている。就職課の判断では、ビジネスコースでは総合職に就いた 7 名を、イノベーションコースでは総合職に就いた 3 名をそれぞれ位置づけた。「総合職」が将来の幹部候補生として業務を行う職種であると判断して「専門的職業」としている。よって、他コースとは違い、はっきりとした職種ではない。

学修の成果として、各コースが目標とする「専門的職業」に就職する学生の数が増えることが望ましい。現実の就職状況の中でどの程度の割合が妥当値かは今後数年の経過を見て判断することとなる。一層の成果を期待したい。 以上

外部検定結果について（総評）

2020.3.17

各コースがそれぞれアセスメントを決定し、2019年度から学生に周知し対策をしている。しかし、2018年度生については推奨していたものの外部検定受験は学生に委ねられていた。

表1. 2011年度から2019年度における外部検定結果（2年次学生）

大学検定合格数(2011～2019年度)								
		PM	FB	販売	色彩	レザーソムリエ	フォーマル	ブライダル
2011年度	入学者数	251						
	受験者数	20	5	15	31		10	3
	合格者数	9	3	12	23		10	3
2012年度	入学者数	211						
	受験者数	27	2	12	32		20	7
	合格者数	9	2	10	19		17	7
2013年度	入学者数	237						
	受験者数	35	3	9	22		2	6
	合格者数	11	1	5	9		1	3
2014年度	入学者数	153						
	受験者数	26	1	2	6		2	3
	合格者数	8	1	1	4		1	3
2015年度	入学者数	173						
	受験者数	35	7	21	18		4	3
	合格者数	3	4	14	7		4	3
2016年度	入学者数	164						
	受験者数	30	1	15	54		12	0
	合格者数	7	1	14	39		12	0
2017年度	入学者数	196						
	受験者数	27	0	5	14		1	1
	合格者数	3	0	5	10		1	1
2018年度	入学者数	215						
	受験者数	24	0	11	5		0	0
	合格者数	1	0	7	3		0	0
2019年度	入学者数	222						
	受験者数	62	24	30	141	9	2	3
	合格者数	27	11	23	95	1	2	3

表1でもわかるように2019年度はアセスメントで推奨したこともあり、パターン検定、ファッションビジネス能力検定、ファッションビジネス販売検定、色彩検定ともに受験数が多く、合格も多い。しかし、受験生に対する合格率は増やす必要がある。

今後は検定試験のためというより、授業の成果として検定合格を目指すべく授業内容の改善や、参加意欲を高め、検定期間近くに対策講座を授業内容に入れていくことを各コース考えている。

また、工場見学など実際の企業の状況を把握すべく、学年ごとに内容を変え、より深く学べるように企業見学等を各コース行っている。

(文責：北折)